Imajin21

今人創造

あめつちみずらんまん

NARA道の駅
大和路へぐり
くまがしステーション

「イマジン21」第25号　平成25年5月1日発行（年2回 春秋発行）

10年の年を費やして今日も薬師寺東塔の解体修理が行われています。私も覆屋の中に付けられた階段を登って、東塔の銘文を山田法胤管主のご説明のもと、この眼で拝見いたしました。今回の東野治之先生の玉稿は書き下し文をつけていただいて、解りやすくよく理解することができました。

また、この銘文が塔の上で刻まれたことも、その時説明をいただきましたが、先生の解説で理解を一層深くできました。

少年時代、自宅から自転車で薬師寺へ行き、東塔を仰ぎ眺めた時にはとても想像もしなかったこと…　東塔解体修理に居合わせることができたことを幸せだと思っています。

そして、佐佐木信綱先生が詠まれた「ゆく秋の大和の国の薬師寺の塔の上なる一ひらの雲」が60年以上もたった今も、私の心に刻まれています。

代表取締役社長　近東　宏光

Imajin21

今人創造

リレー連載 世界遺産 奈良の風景 7 …… 1～3

奈良の artist 05 吉水 快聞 …… 4～5

NARA 道の駅 station 4 大和路へぐり くまがしステーション …… 6～7

まちかど探索 大阪府 あべの・天王寺 “日本一”のシンボル …… 8～9

Essay 印刷文化逍遥 25 …… 10～11

特集 奈良の城 六 布施城 …… 12～13

職場風土改革促進事業への取り組み

少子高齢化社会にあって、これからは益々多様な働き方が企業に求められております。一方、働く人は、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）をより重要視する中にあって、企業としてはそれらを必要十分に充足する環境づくりが不可欠であります。

弊社は、平成14年にはISO14001を認証取得、また18年にはプライバシーマークを取得するなど、時代のニーズに合致した経営推進に努力してまいりました。そして、労働時間等設定改善法が施行されて（平成18年）以後、社内で委員会をたちあげ「有給休暇を取得しやすい環境づくり」をめざし、残業が避けて通れない業界にあって、残業時間を少しでも減少する努力なども含め企業理念の中にある「人間生活の向上」に邁進したいと考えております。

人間生活の向上とは、従業員の仕事と家庭の両立を支援することも大きく関係しており、具体的な取り組みは下記の通りです。

具体的な取り組み

1. 仕事と家庭が両立できる働きやすい会社作り（ワーク・ライフ・バランスの推進）
2. 育児・介護休暇制度の充実を図る
3. その制度を利用しやすい環境作り
4. 管理職層への研修の実施
5. 両立支援制度の労働者への周知徹底

代表取締役社長　近東　宏光

わたしたちができる環境づくり

自然との共存を図りながら
限りある資源を大切に使い環境を守っていく―
私たちは時代に役立つ企業であり続けたいと考えます

編集／制作／発行
共同精版印刷株式会社 http://www.kspkk.co.jp/

本　　社：〒630-8013 奈良市三条大路2丁目2-6 TEL 0742-33-1221 FAX 0742-33-7035
大阪支社：〒542-0082 大阪市中央区島之内1丁目12-3 TEL 06-6271-7951 FAX 06-6271-7954
東京支社：〒116-0014 東京都荒川区東日暮里5丁目6-4 TEL 03-3802-4741 FAX 03-3802-4740

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C007718

GOLD+ P09-0023 nonVOC nonDRAIN 環境保護印刷

たいせつにしますプライバシー 24000148(04) JISQ15001:2006準拠

CERTIFIED MANAGEMENT SYSTEM JQA ISO 14001 JQA-EM2283 本社・本社工場

本誌に対するご感想、ご要望などがございましたら、上記本社内「イマジン21」編集部までお寄せください。

世界遺産
The World Heritage

リレー連載

奈良の風景 7

～薬師寺東塔の銘文～

銘文は歴史の〝証人〟

西ノ京の薬師寺では、東塔の解体修理が進行中である。解体修理というのは、すべての部材を一旦ばらばらにして、もう一度組み上げる大修理なので、「凍れる音楽」と形容される、あの名建築が、覆いを取られて再び姿を現すのは、まだ数年先になる。

その東塔の上に、天人の舞い降りる姿を表した水煙があるのは、写真などで覚えている方も多いだろう。木造の塔の上には、金属製の先端部分があり、下から順に、露盤、九輪、水煙、龍車、宝珠といった部分に分かれる。実は文化財の中でも、文字のある資料を研究している私などにとっては、水煙の天人以上に興味を引かれる銘文が、この金属部分に記されているのである（写真1）。

薬師寺の歴史にとって重要な古代の銘文であり、研究者にはよく知られている。原文はむずかしい漢文で綴られているが、書き下し文を示すと、次のようなものである。

（写真１）

維れ清原宮馭宇天皇の即位の八年、庚辰の歳、建子の月、
中宮の不豫を以て、此の伽藍を創む。而れども鋪金未だ遂げずして、龍駕
騰仙す。大上天皇、前緒に遵い奉り、此の業を成す。
先皇の弘誓を照らし、後帝の玄功を光かす。道は郡生を済い、
業は曠劫に伝えん。高躅に式り、敢えて貞金に勒す。
其の銘に曰く、
巍々蕩々たり、薬師如来。大いに誓願を発し、広く
慈哀を運らす。ああ聖王、仰いで冥助を延べ、爰に
霊宇を飭り、調御を荘厳す。亭亭たり宝刹、
寂寂たり法城。福は億劫に崇く、慶は万齢に溢れん。

大意をいえば、天武天皇が即位して8年、庚辰の年（680）の11月、后（のちの持統天皇）が病にかかったので、その平癒を願って薬師寺を創建した。しかし完成前に天皇は逝去してしまう。そこで持統天皇がその事業を完成させた。この両帝の功績を称え銘文に刻む、というわけである。「其の銘に曰く」以下は、韻を踏んだ「銘」（ここは漢文の文体の一つ）で、薬師如来とその寺への賛辞となっている。

古代の寺院では、塔の上に寺の由来を記した銘文が刻まれることが珍しくなかった。これもその一つだが、薬師寺の場合は少し特殊な事情がある。天武天皇が創建した伽藍は、もと藤原京にあり（現在の橿原市木殿の本薬師寺）、いまの西ノ京の薬師寺は、それが平城京遷都にともなって奈良に移されたものに他ならない。この銘も、藤原京の寺にあった銘文を、平城京の薬師寺の東塔が完成した730年ごろに、新しく刻んだと考えられる。

その何よりの証拠は、庚辰の年を天武天皇の即位の8年といっていることで、これによれば天武は、先代の天智天皇が亡くなった翌々年に即位したことになる。720年にできた『日本書紀』は、天武が天智没後すぐに即位したことにしているから、正史と食い違う年立てを採用しているこの銘文は、そういう歴史観が出来上がる前に書かれたとしか考えられない。

天智の没後、その息子の大友皇子と大海人皇子（天武）との間に、皇位をめぐって有名な壬申の内乱が起きたが、大友皇子の即位を認めない『日本書紀』に対し、大友皇子が即位したとする論も古くからあり、その説の重要な論拠になってきたのが、この銘文だった。広く古代史全体にとっても、この銘文の存在意義は大きいと言わなければならない。

国宝薬師寺東塔

思い焦がれた銘文と対面

塔の上にあるこの銘文をひと目見たいというのは、私の若いころの夢だった。それが叶いかけたことが一度ある。1970年、奈良国立文化財研究所（当時）の研究員に採用された私は、翌春、新人研修を受けたが、そのプログラムには、伊藤延男氏に引率されて奈良の寺々を回るという恵まれた一日が組まれてあった。薬師寺では、東塔に入り最上層まで上ってよいとのことである。しかし結果はみじめな挫折に終わった。

塔内には梯子があって、塔本体の屋根とその外側についている裳階の屋根を交互に渡りながら登っていくのだが、3層目までくると梯子がない。あとは塔の部材に足を掛け、反り身になって登るしかないのだった。高い所が苦手な私など、ここで諦める他はなかった。ちなみに新人6人の内、最上層の屋根に出て銘文を拝んだのは2人ぐらいだったと記憶する。

それから40年余り、私は東塔の修理委員会の末席を汚す立場

になったが、そうなって真っ先に思ったのは、とうとう銘文と対面できるということだった。実際、修理の足場が組み上がった2009年12月以降、解体の節目ごとに見学、調査させていただく幸運に恵まれている。最初の足場は風で揺れ、現在の工事用素屋根のように立派ではなかったが、安心な点では40年前とは比べ物にならない。寒風が吹き抜ける足場の上で、初めて見た銘文は感動的だった。

銘文研究の醍醐味

私が銘文の実物にこだわるのは、銘文の刻まれた時期や方法に関して、そこから何かヒントが得られるのではないかという点にある。もちろんこの銘文については、すでに写真も公開されているし、過去に採られた拓本もあり、銘文は行が真っ直ぐには通らず、左下がりになっているのが判る。

しかも文章は1行12字、全12行の正方形に収まるよう作られているのに、その規格は守られず、明らかな誤字まである。周到に準備したというより、藤原京の薬師寺塔にあった銘文を、急いで東塔にも刻んだ感じが強い。そうなると、すでに金属部分が塔に上げられてから銘文が入れられた可能性も出てくるだろう。

私は、銘文が左下がりなのは、彫り込む前の下書きを右手で書くとき、できるだけ体の位置を変えずに書いたためで、それは動きが不自由な足場上での仕事だったからだと、これまで考えてきた。銘文を間近に見たら、それを補強するような事実が見付かるかと期待していたのである。

薬師寺東塔相輪

しかし銘文を彫ったタガネのあとは極めて流暢で、渋滞など全く見当たらない。一緒に見る機会があると、ほかの研究者から、こんな彫りが塔の上でできるのかという声も聞こえてくる。ただ何度もこの銘文を見るうち、彫り方に変わった特徴のあることに気がついた。

それは、「光」（写真2）「先」「式」など、最後の字画が撥ねられている場合、撥ねの尖端部分だけが、まずタガネを上から下に向かって入れる形で表され、尖端に向かう線は、そのあとで逆方向から撥ねの下部を切って彫られていることである。

これは他の古代金石文には見かけないやり方で、ふつうは筆で書くのと同じように、先へ行って撥ねに連続する。まれに尖端だけ別に彫って繋げる例もあるが（たとえば伊福部徳足比売墓誌）、先端部は最後に刻まれていて、順序は逆転していない。東塔の銘文は、なぜこういう変わった刻み方をしているのか。

私はこれこそ、この銘文が塔上で刻まれたことを裏付けるもう一つの証拠だと考える。一般に字を彫るとき、工人は彫りやすい方向からタガネを入れる。しかし足場の上ではそれは無理である。そこで下書きに沿って先に撥ねの尖端を入れておく方法をとったのだろう。

（写真2）

銘文に密着すると、このようにそれを作った古代人の動きが見えてくる。文化財に接して研究する面白さは、こんなところにもあると言えるだろう。

＊図版（写真1・2）は、安田暎胤・大橋一章『薬師寺』（里文出版、1990年）による。その他は「法相宗大本山薬師寺」提供。

東野 治之
［とうの　はるゆき］
1946年兵庫県西宮市生まれ。大阪市立大学文学部卒業ののち同大学院修士課程修了。奈良国立文化財研究所研究員、大阪大学文学部教授などを経て、1999年に奈良大学文化財学科教授となる。1996年に『日本古代木簡の研究』で東京大学博士（文学）。2010年より日本学士院会員。著書は『木簡が語る日本の古代』『正倉院』『遣唐使』『鑑真』（いずれも岩波新書）ほか。

奈良の artist 05

彫刻家

吉水 快聞

Yoshimizu Kaimon

じっとしているのに脈を打ち、光によって表情を変える作品たち。彫刻家・吉水快聞さんは、伝統に敬意を払い、理想美を求めて、鑿(のみ)や彫刻刀を振う。

奈良と仏像は彫刻の根源

吉水快聞さんはアーティストとしての「彫刻家」、仏像を制作する「仏師」、仏像など文化財の「修復家」、浄土宗寺院の「住職」の4つの顔を持ちます。

「今後はそれぞれに、時間の使い方を考えていかなければいけませんが、現時点では4つが、相互に影響を与えていて繋がっています」と吉水さんは言います。

幼いころより手を動かすことが好きな吉水さん。奈良県立高円高校美術科へ進学し、大学は東京藝術大学彫刻科へ入学。大学院では文化財保存学を専攻して仏像について学び、籔内佐斗司氏に師事して、博士号（文化財）を取得しました。主な研究としては、東大寺俊乗堂の快慶作阿弥陀如来立像の想定復元模刻を行いました。

「大学で奈良から来たと話すと羨ましがられました。奈良にいるときは、さほど仏像や奈良に目を向けませんでしたが、日本の彫刻の根源を知りたいと勉強していったとき、再び〝奈良〟と〝仏像〟に戻ってきました」と吉水さんは話します。

「自分が何を創りたいのか迷った時期もありました。しかし大学院で快慶の残した仏像を模刻し『快慶は何を創りたかったのか』に迫る中、快慶は情景、時間、場所といった『仏』が存在する『空間』を創り出したかったのではないかと思うように至りました。『空間』…その時、闇雲に創ってきた自分の作品との共通性に気が付きました」と吉水さんは語ります。模刻を通じて800年前の快慶が教えてくれた様々なことが吉水さんの自信に繋がりました。

彫刻界の次代の旗手

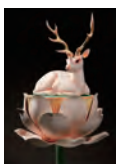
奈良市内に構える工房「巧匠堂」。制作途中の高僧の木彫像、愛嬌ある小動物たち、そして使い込まれた道具たちが、それぞれの場所で出番を待っています。

「制作中はリアリティよりも、イメージを大切にします。その方がよりその本質に近づくような気がするから」と吉水さん。作品をどのような環境で、どのように見せたいか。「彫刻の表情は光でも変わります。これらの条件を想定しなくてはいけないですし、快慶ら先人たちも当然それらを考慮していたと思います」。吉水さんの手からから生み出される作品は、話しかけてくるようで、黙考しているようで、これから物語が始まるかのようです。

また、吉水さんは道具にもこだわりをみせています。彫刻刀の握りの形状や研ぎ方まで自分用に調節。「道具がないと私は何もできません。思い通りに動かしたいし、最高の状態で使いたい」と、その言葉からは道具を作ってくれる職人への敬意が感じられます。〔温故知新〕。巧匠堂で、そうした材木を叩き、鑿を打つ槌の音を聞いていると、まるでそこには悠久の時が流れていると錯覚してしまうほどです。

今後の展望はとの質問に、吉水さんは「第一線で活躍している人は皆、楽しそう。そんな人たちと関わり、学んで一緒に仕事をすることができたら、もっと表現の幅が広がるでしょうね」と話します。5月には初の個展を開催する予定。気鋭の彫刻家の視界が着々と広がっていきます。

Profile
よしみず　かいもん　1982年、奈良県生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。2011年、巧匠堂設立。2012年、第2回奈良国際映画祭ゴールデンSHIKA賞トロフィーを制作。画廊や大手百貨店での作品展多数。
【公式サイト】http://www.kaimon.biz/



『　無垢　』　横21×奥21×高42cm
〔木彫（ヒノキ）に彩色・截金　漆　箔〕2013年

道の駅

station ④

大和路へぐり くまがしステーション

地元農家の新鮮野菜・季節の花がいっぱい

13年前に野菜の直売所のテント1つから始まり、今や年間20万人～30万人が訪れる道の駅になった大和路へぐり・くまがしステーション。農業町ならではの新鮮な野菜や生花を求めて、多くの人々が訪れます。

訪れるお客様のほとんどが口コミ情報で来られるほど「良質・安心・安価」が徹底されています。全ての野菜が生産者の名前と写真入りで紹介されていて、へぐりの農家の方がへぐりの地で作ったものしか店頭に並ぶことはありません。

なかでも一番の人気はイチゴです。「古都華（ことか）」という品種で、糖度が高いのが特徴。今では生産が間に合わないほどです。

そんな新鮮野菜をその場で食べることができるのが自然派カフェ&レスト「ｈａｎａｎａ」。地元農家の新鮮な野菜がふんだんに使われた日替わりランチが人気です。

また手軽なお土産として重宝されるのが乾燥野菜等の加工食品です。味噌汁の具や炒め物にも使えて料理に彩りを添えてく

道の駅 大和路へぐり
くまがしステーション
キャラクター「カッシー君」

自然派カフェ&レスト「hanana」

（価格メニューは4月現在）

日替り　Aランチ　980円

日替り　Bランチ　1,280円

朝市野菜たっぷりのハムサンド
（本日のサラダつき）　700円

日替りメニューやサラダは
そのときの採れたて野菜で
レシピが変わります。

季節を彩る へぐりの花

5月からは、へぐり名産の
小菊やバラで賑わいます。

お土産を買おう

乾燥やさい各種
調理して料理の材料にも、そのままオヤツ
代わりにも…食卓のアイデア膨らむ食材

幸福うめ酒
へぐりの完熟梅
100%

いちごジャム
へぐりのいちご「古都華」で作った芳
醇な味わい

里の恵
風味や香りにこだわる大人向けの焼酎

手作り味噌　**おかず味噌**
自然の恵みたっぷりくまがしのおふくろの味

地元素材の
オリジナルブランドが
いっぱいです。

れます。他にもいちごジャムや梅酒等があり、ここにもおいしいへぐりの特産素材が使われています。

平群町は小菊やバラが特産で、これからが最盛期。売場いっぱいに色とりどりの花が並びます。野菜、果物、生花に土産物。季節の彩りにあふれる道の駅です。

道の駅大和路へぐり くまがしステーション

奈良県生駒郡平群町平等寺75-1（国道168号沿い）
営業時間 9:00～18:00
休業日：火曜（祝日の場合は営業。翌水曜休）
駐車場：普通車70台、大型車3台、身障者用4台
問合せ：TEL 0745-45-8511
ホームページ　http://www.heguri-apc.jp/station/index.html

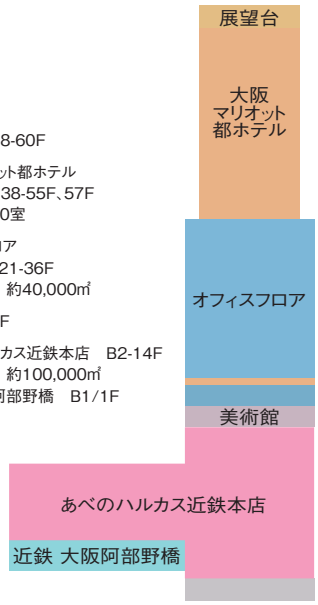
大阪府 あべの・天王寺
〝日本一〟のシンボル

1912（明治45）年7月、明治がまさに大正へうつろうという時「高さ日本一」を誇る建物として誕生した初代通天閣。創建から100年を経た今「高さ日本一」が最先端の複合ビルとして大阪に返り咲こうとしている。

高さ日本一は100年前にも

あべのキューズモールをはじめとした商業施設の相次ぐ開業に賑わうあべの・天王寺に、来春新たな複合ビルが誕生する。日本最大の売り場面積となる百貨店「あべのハルカス近鉄本店」や大規模オフィス、国際ブランドホテルなどで構成される「あべのハルカス」だ。試算されている莫大な経済効果とともに話題となっているのはその「高さ」。300mにも達し、296mの横浜ランドマークタワーを抜いて国内で最も高い高層ビルとなる。

しかし、ご存じだろうか。100年前、この地に同じく日本一、いや東洋一の高さを誇る展望塔として話題を集めた初代通天閣の存在を。



展望台　58-60F

大阪マリオット都ホテル
19F･20F、38-55F、57F
客室数 360室

オフィスフロア
17･18F　21-36F
貸床面積　約40,000㎡

美術館 16F

あべのハルカス近鉄本店　B2-14F
売場面積　約100,000㎡
近鉄大阪阿部野橋　B1/1F

世界クラス超高層ビル
あべのハルカス

所在地／大阪市阿倍野区阿倍野筋1
地上60階・地下５階の超高層複合ビル。2013年6月に百貨店フロア「あべのハルカス近鉄本店タワー館」が先行オープンし、2014年春には展望台や美術館をはじめとするすべてのフロアがグランドープン。その高さは横浜ランドマークタワーを抜き、2012年8月で300mに到達。日本一の超高層複合ビルとなった。あべのと天王寺を結ぶ屋根つきの歩道橋やあべの筋の拡張などの周辺開発も同時進行している。

初代通天閣が大阪発展の原動力

20世紀のはじめ、日本を代表する商工業都市として急激に成長した大阪。その発展のきっかけとなったのが国内の産業発展を目的に1903年（明治36）年に開催された内国勧業博覧会だ。大成功をおさめた〝万博〟の余韻覚めやらぬ1912（明治45）年、跡地に初代通天閣と都市型遊園地「ルナパーク」が完成する。

初代通天閣は現在の二代目通天閣とは大きく異なり、凱旋門の上にエッフェル塔を乗せたなんとも大阪らしい奇抜な出で立ち。高さ75mは当時アジア一の高さとしてひときわ存在感を放っていた。

戦時中に火災と金属回収策のため解体されてしまうが、1956（昭和31）年、食べていくのが精いっぱいという時世にも関わらず地元商店主らが資金を工面し、現在の二代目通天閣として再生することになる。

世紀を超えてバトンタッチ

初代通天閣から数えて100周年となる2012年7月の翌月、あべのハルカスが高さ300mに到達。世紀を超えてあべのハルカスに「高さ日本一」のバトンタッチを果たした。

あべのハルカスから大阪の未来を見渡せば、新たな大阪の始まりを予感させる眺望が広がっていることだろう。初代通天閣が果たした大阪発展の原動力としての役目を担ってくれるに違いない。

合格祈願や縁結びにご利益があるという幸福の神様・ビリケンさんは、金色に輝く5階の展望台に鎮座している。100年前の新世界でもまつられていた。

エッフェル塔を模した初代通天閣。通天閣を取り囲むように芝居小屋や映画館、飲食店などが数多く集まり大阪一の歓楽街として賑わった。

100周年でますます賑わうランドマーク

通　天　閣

所在地／大阪市浪速区恵美須東1-18-6
営業時間／9：00～21：00※入場は～20:30
地上103.3mを誇る新世界のシンボル。初代は1912（明治45）年に当時日本一の75mの高さで開業。その後解体されたが1956（昭和31）年に現在の２代目が開業した。昨年７月３日に100周年を迎え、2012年度の入場者数が53年ぶりに130万人を突破。バレンタインデーにカップルが入口でキスしたら入場料が半額になる「キス割キャンペーン」など、あの手この手の大阪らしい企画を実施。右肩上がりの業績を記録している。

夏は爽やかな白色の照明、春・秋・冬は暖色の照明といった具合で、1年を6色で表現するネオン。

印刷文化逍遥 25

どんな本を読んできたか
―私的読書遍歴史―

中学を卒業したのが昭和24年3月、まだ15歳の半分子どもであった。すぐに郊外にあったTという町の印刷会社の徒弟の一員となった。

そこで9年ほど勤め、そこを辞めてから大阪のNという写真製版の会社へ行くことになった。仕事は主として新聞の広告を作るところであり、仕上げは紙型にして広告代理店に納めていたようである。

さて、読んできた本のことについて。最初に読んだのは文庫本である。中学校を卒業した者にとって買えるのは、文庫本くらいしかなかったのである。

忘れもしない思い出の一冊は、新潮文庫の田中英光『オリンポスの果実』であった。薄っぺらな一冊であったが、永い間忘れられないものになった。

次に買ったのは、創元社から出ていた『太宰治全集』。まず『晩年』を読み、すてきな文体に引かれた。『津軽』という一冊も忘れがたい。太宰を小さな頃から育ててくれたタケという女性のことが書かれていた。

次に難しい本の一冊、佐藤輝夫の『ヴィヨン詩研究』は、今も書棚の中に収まっている。昭和28年の発行で、定価は150円。私にとっては随分と高い出費であった。

フランソワ・ヴィヨンといえば、フランス中世の泥棒詩人だが、作品よりも、その生涯に興味があった。作品は岩波文庫から『ヴィヨン詩全集』として、鈴木信太郎の訳詩で出版されているが、出版社にとっても、訳詩者にとっても、記念碑的な一冊であろう。

他に忘れがたいものに、いくつかの全集本がある。たとえば岩波書店の『荷風全集』。中でも日記が収録されている第19巻～第24巻が圧巻で、荷風が文化勲章を受章したのは、実はこの日記の存在が大きいといわれている。日記はいわゆる「断腸亭日乗」で、「断腸亭」と号した所以は、若い頃から胃腸が弱かったからだといわれている。

次は岩波書店の『漱石全集』である。特に日記や書簡の類は漱石の素顔が出ていて、思わず笑い出してしまいそうなほど。漱石の個性がよく現れている。

これまで2、3回の引っ越しをしたが、厄介なのは本の始末であった。回収業者にいえばそれこそ二束三文。やむなく古書店に電話をするが、その見積もりは概ね安い。よほどいい本でないと高値では買ってくれない。できたら売りたくないが、やむをえないときもある。そんなときは、つくづく蔵書家としての業を感ずるばかりである。

さて、雑本の中では、俳優・芦田伸介の『ほろにがき日々』を紹介しよう。箱入り、紙カバー、紙表紙であるが、表の見返しの左側にペン書きで「芦田伸介」のサイン入りを手に入れた。発行は昭和52年2月26日、

発行元は株式会社スリーセブンというところで、発売は株式会社勁文社となっている。印刷は凸版印刷、製本は明興製本である。

価値の上からいえば取るに足りないものだが、芦田伸介ファンの一人なら手が伸びる一冊であろう。これも古書店を回っていての功徳の一つであろうか。何が縁につながるか分からない。内容は分かりやすく、役者人生が淡々と語られていて、気持ちよく頭の中に入っていく。

文庫本の中で忘れがたいものがあった。岩波文庫のゲーテ『イタリア紀行』である。旅するゲーテが旅先からスタール夫人に宛てて出した手紙をまとめたものだが、この中にあの有名な「ナポリをみて死ね」という文句が出てきて感動する。ドイツ人のゲーテにとって、ナポリは忘れがたい風光明媚なところであった。

先日もう一度この書を読み返そうと思って本を探したが見つからなかった。どうやら古書店に売り払ってしまったらしい。年を取るとろくなことはない。情けないことだ。

ところで以前、共同精版印刷に勤めていた頃、北海道旅行をさせてもらったことがある。それより以前から幕末の北海道に興味があって、近頃、石井孝の『戊辰戦争論』、好川之範の『函館戦争全史』を読む機会に恵まれた。私はこれら2冊を読み、かつて北海道を訪れた日のことを懐かしく思い出した。

それにしても他にどんなものを読んできただろうか。英文学者の福原麟太郎、福田恆存、西脇順三郎、また仏文学者の辰野隆、鈴木信太郎、河盛好蔵など、いずれも蒙を啓かれたことが懐かしく思い出される。なにしろ図書館に行くのが嫌いで、せっせと自分で買い込んでは、夜遅くまで読みふけったものである。

また、大和資雄の『英米文学史』（角川文庫）は、またとないよきテキストであった。『フランス文学史』は誰のものを読んだのか。たぶん篠沢秀夫のものではなかったかと思う。

私にとって本は欠かすことのできない存在であり、学校の次に大切にすべきものであった。まだまだ本を読まねばならないし、これからも学ぶべきことはたくさんあるはずである。

そんななかで読んだ一冊にジョージ・ギッシングの『ヘンリー・ライクロフトの四季随想』がある。訳は松田銑。近頃のものではこの人の訳が一番分かりやすく、読みやすい。少なくとも退職後の毎日をどう過ごすかという人のためには、まさに打ってつけの一冊であろう。とにかく英国人は辛抱強い。我慢強いのである。それを我々も学ばなければならない。

こうした人生途上でのいろいろな出来事を経験し、通過することによって、その人は磨かれていくのだが、誰もが一様にというわけにはいかない。まずは良書を探し、見つけたら徹底して読み切ることだ。

最後に、新潮文庫の『ゲーテ格言集』を推薦しよう。高橋健二の編訳だから信用がおける。

「君の胸から出たものでなければ、人の胸を胸にひきつけることは決してできない」

（『ファウスト』第1部544～545行）

嘉瀬井　整夫

［かせい　ただお］

1934年京都市に生まれる。

1949年より94年まで印刷産業に従事。

奈良県立短期大学（現奈良県立大学）卒業。

主著『井伏鱒二私論』

『奈良大和路文学散歩』

『奈良高畑日記抄』ほか。

文芸評論家。

特集

奈良の城 六 布施城

奈良にも多くの城が存在した。
時代の流れと共にそれは城跡となり、
私達の心から忘れ去られようとした。
再びその存在を知り、
そこに息づくエピソードを紐解く。
それは、私達のルーツを知ることになる。

布施城のイメージを概観できるジオラマ模型。（葛城市歴史博物館提供）

大和葛城山から延びる山系の東部中腹。布施城址から、大和盆地の眺望が広がります。築城時期は不明ですが、織田信長が天下統一を夢見た時代に存在感を放った山城です。戦国乱世の戦火に焼かれた記録はありませんが、大和国を支配下に置いた信長の命令により破城に。時を経て、地元ボランティアグループが整備したルートや案内標識を頼りに、失われた名城の面影を訪ねることができます。

難攻不落の山城

布施城は大和屈指の山城です。布施氏が治めた布施郷は葛城市南部一帯ほどの広さでしたが、東西約６００ｍ・南北約２００ｍという布施城は、北近江の戦国武将・浅井長政の小谷城と比類されるほどの規模を誇ります。

布施城を取り巻く人物相関をたどると、知謀計略がめぐらされていたことに気づきます。まず織田信長方についた松永久秀が、筒井順慶を攻撃。敗戦が重なった順慶は、１５６５年（永禄８年）に筒井城（大和郡山市）から布施城に逃れます。

やがて久秀が信長に背いて滅びると、順慶は信長の配下に入り、大和国を任されます。しかし大和郡山城を除いて、すべての城郭を破壊せよと命じられ、１５８０年（天正８年）、布施城は破壊されてしまいました。

久秀にしろ、順慶にしろ、時の権力者に迎合したり、背反したり。現代の政治も、離党だの派閥だの騒がれることがありますが、自己に有益な風を読んで離合を繰り返すのは、古今を問わない為政者の習性なのかもしれません。

そんな中、順慶への忠誠を貫いたのが布施氏です。久秀軍勢に連敗し、多くの配下に見限られていた順慶を、布施行盛（ゆきもり）が布施城に迎え入れ、１５６５年～１５７１年（元亀２年）の７年間にわたり抗戦。結局、布施城は戦火に屈しませんでした。

建造物が現存しない布施城ですが、「戦火に倒れたのではない」という意味では、最後まで難攻不落の城だったのです。

地元ボランティア団体が整備したルートで、城址まで迷うことなくハイキングが可能。櫓台と主郭付近から眺望が開けます。
（葛城市歴史博物館提供）

●畝状竪堀群（西側）
城域の西端にあり、背後からの敵兵の侵入を防いでいます。山腹の左右に築かれた竪堀群は、敵兵の山腹での横移動を阻止する役目を持ちます。
（葛城市歴史博物館提供）

●布施城縄張図（藤岡英礼氏作図）
標高330m～480mに築かれた布施城。高低差は実に150m。信長軍勢が苦戦した理由が想像できます。（葛城市歴史博物館提供）

想像膨らむ遺構の数々

急峻な山、何本もの竪堀、何重にも築かれた曲輪が難攻不落ぶりを物語る布施城。柱の基礎だったと思われる礎石が残っていますが、布施城が布施氏の居城だったのか、戦時のみの拠点だったのかには、諸説あります。

ふもとの二塚古墳脇から延びる登山ルートは、「布施城のことを多くの人に知ってほしい」との思いで結成された『山里を愛する者の集い』のみなさんがボランティアで整備しました。下草刈りや清掃、案内標識の設置、見学会などを行っています。

登山口から約40分で北東の虎口に到着。そこから曲輪がひな壇状に主郭まで連続し、息が上がるころに現れる西側の櫓台からの眺望が、登山の疲れを和らげてくれます。

布施城は俯瞰するとY字に見えます。堅守ぶりを特徴づけているのは、西と南東にある畝状竪堀群です。V字状の堀を設け、敵の進軍を遮断。攻められては困る弱点を埋めるアイデアが駆使されていたことが伝わってきます。

石垣がないという点も構造的な特徴のひとつ。石を用いる築城技術は、織田・豊臣時代以降だといわれます。布施城は築城年不詳ですが、少なくとも織田信長の支配が及ばない時代に造られたと推察されます。

大和国を任された順慶の死後、布施氏は秀吉により切腹を命じられ、本家筋は途絶えてしまったといいます。順慶に対して忠義を通してきた布施氏。現在も一途な忠義に共感する人は少なくありません。

葛城市歴史博物館には、布施城のジオラマ模型（想定復元）があり、城が健在だった当時のイメージを膨らませることができます。

●竹内街道
今年敷設1400年を迎える竹内街道。至近に城を建てた万歳氏と布施氏は頻繁に小競り合いを繰り返していたといいます。

●慶雲寺
布施氏の供養塔がある慶雲寺。その山門は布施城の名残だったという伝承が残っています。

アクセス 電車／最寄駅は近鉄御所線新庄駅。
車／南阪奈道 葛城ＩＣを南へ。または、国道24号、南花内交差点を西進。

葛城市歴史博物館
奈良県葛城市忍海250-1　TEL:0745-64-1414
開館:9時～17時（入館は16時半まで）　休館日:火曜、第2・4水曜　年末年始
観覧料:一般200円　高校・大学生100円　小・中学生50円
春の企画展『竹内街道設置1400年記念　竹内街道の成立 －大道を置く －』は、6月30日まで。

命が吹き込まれる

森があり

『 凛 』 吉水快間 〔木彫(睡蓮：ヒノキ　蛙：ツゲ) 顔料 漆 截金〕 横52×奥28×高15㎝　2011年

Imajin21

今人
創造

悠久の歴史の流れ、古の都は
今も、その面影を色濃く残す
いくつものドラマがあり
新たな時代が生まれた
そこから先人の英知を知り
人を見つめ直す
そして「今」を創造す

KYODO SEIHAN PRINTING

KSP

樹が育ち

そして紙ができ

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C007718
www.fsc.org

本誌は、「FSCミックス認証紙」を使用しています。

PRINTED WITH SOYINK™